



ものづくり産業が 時代の流れに対応し、活性化している

1 新たな事業活動の創出



現状と課題

- 急激な経済変動や少子高齢化による人口減少に対応可能とするため、本市の主力産業であるものづくり産業の多様化を推進する必要があります。
- 新たに事業活動に取り組む創業者に対しては、その事業段階に応じた支援を的確に提供するとともに、創業後の事業継続に向けて関係機関が連携してアプローチしていく必要があります。



施策の展開

ものづくりをはじめとする地域産業の持続的な成長支援

- 本市産業の礎となる人材育成や新たな取り組みに挑戦する人材の確保、次代に事業をつなぐ事業承継に対する積極的な支援を行うとともに、安定的な経営基盤の構築に向けた取り組みを支援します。
- ものづくり産業を中心とした市内産業の技術力を活かした新分野・新事業展開、地域産業の魅力を活かした販路拡大・付加価値向上を支援するとともに、デジタル化の推進による技術革新のための取り組みを支援します。

産学官金の連携強化による新事業創出と創業

- 金融機関や産業支援機関と連携したネットワークを構築し、創業者の掘り起こしから自立までを一体的に支援する体制を拡充することにより、創業件数の増加を図ります。
- 創業初期における事業所確保に対する支援として空き工場の情報提供、空き店舗・空き家の活用補助を行います。
- 新たに創業しようとする意欲のある人に対して、商工会議所・商工会等と連携し、円滑な資金調達を支援します。
- 産学官金の連携を強化し新たな事業に取り組む創業シーズの発掘強化と事業段階に応じた支援を継続するとともに、事業者間の連携による新事業創出やイノベーションの推進に取り組めます。
- とやま呉西圏域における起業・創業の拡大に向け、新たな創業の掘り起こしや一体的なサポートに取り組めます。

関係機関と連携した研究開発・人材育成の推進

- 富山大学芸術文化学部や富山県立大学、富山県ものづくり研究開発センターなどの大学等研究機関との共同により、高機能素材等の研究の推進や人材育成の促進などを図ります。



主な事業

ものづくりをはじめとする 地域産業の持続的な成長支援	・ 事業承継、創業、デジタル化の推進等に取り組む事業者への支援
産学官金の連携強化による 新事業創出と創業	
関係機関と連携した研究開発・ 人材育成の推進	・ 最先端技術等関連研究機関の誘致

まちづくり指標

指標名	基準値	目標値(R8)
創業件数(累計)	171件 (R2)	600件 (R4～R8までの累計数)



とやま呉西圏域起業セミナー



ZIBA(高岡地域地場産業センター)



ものづくり産業が 時代の流れに対応し、活性化している

2 地域産業の競争力強化



現状と課題

- 高岡市はアルミを中心とする金属製品、化学工業、パルプ・紙などの産業や、銅器、漆器、菅笠などの伝統産業が集積する日本海沿岸を代表する工業都市として発展してきましたが、近年は、事業所数、従業者数、製造品出荷額等の減少など厳しい状況が続いています。
- 長年にわたって培われた高岡銅器、高岡漆器、越中福岡の菅笠などの伝統産業は、高岡市の特色ある産業として従来から振興が図られてきていますが、需要の伸び悩み等の問題に直面しています。
- 多様化する市場ニーズに応じた新技術・新製品開発や販路開拓等を図る取り組みを促進する必要があります。
- 国内市場が縮小する中、海外販路開拓への取り組みを促進していく必要があります。



施策の展開

ものづくりをはじめとする地域産業の持続的な成長支援(再掲)

- 本市産業の礎となる人材育成や新たな取り組みに挑戦する人材の確保、次代に事業をつなぐ事業承継に対する積極的な支援を行うとともに、安定的な経営基盤の構築に向けた取り組みを支援します。
- ものづくり産業を中心とした市内産業の技術力を活かした新分野・新事業展開、地域産業の魅力を活かした販路拡大・付加価値向上を支援するとともに、デジタル化の推進による技術革新のための取り組みを支援します。

新事業展開の促進

- 経済情勢が大きく変動する中において、ものづくり産業を中心とする中小企業、小規模企業の基盤を安定化させるとともに、課題を克服し、技術を活かした新分野参入、新事業展開を推進します。
- デジタル化の推進などに伴う新技術を活用し技術革新や新たな事業の創出、事業の高効率化・高度化を図る企業等の取り組みを支援します。
- 市場ニーズを的確にとらえ、時代のニーズに適応した手法による販路開拓、ブランド構築を推進する企業等の取り組みを支援します。
- 多様化するメディア媒体、コンテンツ等を効果的に活用し、本市の地域産業の魅力発信に取り組むことで販路拡大や付加価値向上を支援します。



- 銅器・漆器・菅笠といった本市の伝統産業分野におけるブランド化や新製品開発、新技術・新素材の研究・開発などを促進するとともに、マーケティング強化の支援に努めます。
- 本市の工業、商業、観光、農林水産業や豊かな歴史・文化等の地域資源を活用し、時代のニーズに合わせた競争力のある商品等の開発を支援します。
- 文化財修理技術の向上や技術者の育成、保存修理活動への取り組みを支援するとともに、高い技術力のPRに努め、その産業化を推進します。
- 伝統工芸産業人材養成スクールを実施し、事業展開等を担う技術者の養成を図ります。

国内外への販路拡大支援と産業の魅力発信

- 産業支援機関等と連携し、国内外への販路拡大の取り組みや企業活動の国際化を支援します。
- 工芸都市高岡クラフトコンペなどのデザイン関連企画展の開催支援や、Web版のデザイン情報誌の発行などを通じて「ものづくり」をはじめとした高岡の産業の魅力の発信を図ります。

主な事業

ものづくりをはじめとする地域産業の持続的な成長支援(再掲)	・事業承継、創業、デジタル化の推進等に取り組む事業者への支援(再掲)
新事業展開の促進	・ものづくりの技術等を活かした新分野・新事業の展開支援 ・新クラフト産業・デザインの育成支援
国内外への販路拡大支援と産業の魅力発信	・ものづくりをはじめとした産業の魅力の発信

まちづくり指標

指標名	基準値	目標値(R8)
企業訪問における新商品開発・販路開拓相談件数	84件／年 (R2)	121件／年
伝統産業生産額の維持	10,716百万円／年 (R元)	10,716百万円／年
創業件数(累計)(再掲)	171件 (R2)	600件 (R4～R8までの累計数)



ものづくり産業が 時代の流れに対応し、活性化している

3 産業基盤の整備・企業立地の推進



現状と課題

- 近年は、高度な技術により新たな事業展開を図る企業の取り組みや高効率化に向けた設備投資の動きが進んでいます。
- 国際展開を見据え高速交通網や伏木富山港などを活用した物流機能の向上を図る必要があります。
- 企業立地を推進するため、新たな産業団地の整備が求められています。



施策の展開

企業活動を活性化させる環境整備

- 市内企業の新たな事業活動を促進するため、産業団地やその周辺のインフラ整備を行います。併せて市内に立地する企業の周辺環境の整備に取り組みます。

企業誘致・立地の推進

- 新規企業の誘致や既存企業の拡張の受け皿となる企業の立地ニーズに対応した新たな産業団地の適地調査を行います。
- 国や県の立地支援施策を活用した民間の開発行為に係る支援に取り組みます。
- 高岡に集積する企業の魅力や産業支援施設の充実度をPRするとともに、企業の拠点強化も見据えながら支援・相談体制を充実させ、新たな成長分野や地元関連企業との取引活性化につながる優良企業の誘致を図ります。
- 高速交通網や伏木富山港などの社会資本を活かし、環日本海に拓かれた物流の拠点化を目指します。



主な事業

企業活動を活性化させる環境整備	・工場等の周辺環境整備
企業誘致・立地の推進	・企業立地に対する助成 ・企業団地適地調査の結果を踏まえた開発手法の検討

まちづくり指標

指標名	基準値	目標値 (R8)
市内企業の設備投資件数(累計)	6件 (R元)	50件 (R4~R8までの累計数)



ICパーク高岡



大都市圏での企業誘致



ものづくり産業が 時代の流れに対応し、活性化している

4 中小・小規模企業の経営基盤強化



現状と課題

- 経営資源の確保が困難であることが多い中小企業、小規模企業について、個々の課題解決や安定した経営の確保が必要となっています。また、事業が継続できないケースなども生じてきています。このため、産業支援機関、金融機関等と連携し、事業承継に対応する支援に取り組むことが求められています。
- 常に変動する金融環境に即応し、中小企業者や勤労者の要望に沿った融資制度の充実が求められています。特に、中小・小規模企業は大企業に比べ財務体質が脆弱であるため、資金の円滑な供給が求められています。
- 高岡銅器、高岡漆器、越中福岡の菅笠といった伝統産業は、後継者不足等の問題に直面しており、脈々と受け継ぎ培われてきた伝統技術の継承が課題となっています。



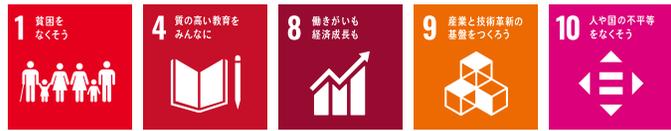
施策の展開

産業支援機関等と連携した経営支援

- 商工会議所・商工会等との連携によるセミナーの開催や専門家の活用により、経営の安定化、経営革新、事業承継を支援します。
- 産業支援機関や金融機関とのネットワークを活用した個別相談対応により、中小・小規模企業の課題解決を支援します。
- 事業承継について、中小・小規模企業のニーズ把握に努め、金融機関や産業支援機関と連携して、後継者への継承、事業引継ぎなど具体的案件に対応した個別支援体制を構築します。

充実した中小・小規模企業向け融資制度

- 中小企業の経営の安定・合理化、設備の強化等を支援するため、中小企業者向け融資制度の充実を図ります。
- 緊急的な資金需要や経営基盤の改善に資する融資制度の整備を図ります。
- コロナ禍による急激な経済変動などに対応可能な経営基盤の強化に向けて、資金繰り等の金融支援による安定的な経営支援に継続的に努めます。



勤労者融資制度の充実

- 小口資金融資制度など、勤労者融資の充実を図るとともに、制度の啓発、普及に努めます。

伝統産業の後継者育成

- 伝統工芸産業人材養成スクールなどを実施し、伝統技術の保存・継承と後継者の自立支援に努めます。
- 「ものづくり・デザイン科」を通じて児童生徒の頃から伝統的工芸品や地域の特産品について学ぶことで、ものづくりの心を育てます。

主な事業

産業支援機関等と連携した経営支援	・産業支援機関や金融機関とのネットワークを活用した事業承継の推進
充実した中小・小規模企業向け融資制度	・中小企業向け融資の原資としての金融機関への預託
勤労者融資制度の充実	・勤労者等向け融資の原資としての金融機関への預託
伝統産業の後継者育成	・伝統工芸産業人材養成スクールの実施

まちづくり指標

指標名	基準値	目標値(R8)
連携体制による事業承継件数(累計)	—	5件 (R4～R8までの累計数)
養成スクール修了生の内、伝統工芸産業に従事する人数(累計)	38人 (前期12人、後期26人、 2力年の人数)	88人 (R4～R8までの累計数)



ものづくり産業が 時代の流れに対応し、活性化している

5 雇用・勤労者福祉の充実



現状と課題

- 若者の雇用を巡る動向は、失業率が全年齢層に対して相対的に高く、新規学卒者の就職後3年以内に離職する割合は高い水準で推移しています。また、ニートといわれる若年無業者は90万人弱いるものと推計されています。
- 国が公表する「高年齢者の雇用状況」及び「障害者雇用状況」の集計結果によれば、中高年齢者や障がい者の労働力人口や就業率は近年増加傾向にあり、就労に対する意向を踏まえれば、年齢や障がいの有無等にかかわらず活躍し続けることができる社会の実現を図ることが求められています。
- 少子高齢化の進行に伴い、労働力人口が減少する中、地域経済の振興を図るためには、企業がこれまで培ってきた優れた技術の継承や人材の育成、若年層や女性、外国人など新たな労働力の確保が必要となってきています。
- 「少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少」や「働く人々のニーズの多様化」などの課題に対応するため、就業機会の拡大や意欲・能力を存分に発揮できる環境をつくる必要があります。



施策の展開

若者の雇用の場の創出・就業促進

- 若者が地元で就職できるよう企業と若者とのマッチングを図ります。
- 市ホームページ等を活用して企業概要や合同就職面接会等の情報を発信し、UIJターン※1就職の推進を図ります。
- ニートなど若者に対する相談やカウンセリングの充実を図り、働く意欲の喚起、職業的自立を促すなど、若者の就業促進に努めます。

中高年齢者・障がい者の雇用対策

- 中高年齢者の就業条件の整備や雇用の場の確保などのため、とやまシニア人材バンクとの連携に努めます。
- ハローワークと連携し、中高年齢者等と企業との雇用のマッチングを図ります。
- ハローワーク、障害者就業・生活支援センターなど関係機関と連携を図りながら、障がい者の働きやすい雇用環境づくりに向けた啓発に努めるとともに、障がい者の雇用促進に努めます。

※1

大学進学あるいは中学校・高校卒業時の就職で地方から大都市圏に出た後、再び地方に就業・移住すること。Uターンは出身地に、Iターンは出身地と異なる地域に、Jターンは出身地の経路にある地域に移ること。



主なゴールを掲載

女性の雇用機会の充実・就業環境の整備

- 企業や市民に対し、男女の均等な就業機会・待遇の確保や職場環境の改善、仕事と家庭の両立、女性の活躍推進の取り組みについての啓発に努めます。

外国人の職場環境の改善

- 企業に対し、外国人の働きやすい職場環境の改善や再就職の支援に取り組むよう啓発に努めます。

職業能力開発機会の充実

- 職業訓練機関等と連携し、様々な職業訓練機会の充実など、安定した就業機会の確保に努めます。

勤労者福祉の充実

- 勤労者福祉サービスセンターへの支援や、中小企業者の退職金共済制度への加入啓発等を通じ、中小企業労働者の福利の向上と雇用の安定を図ります。
- 勤労者の多様な余暇活動のニーズに対応できる環境づくりのため、勤労者福祉施設などの充実を図ります。

働き方改革の推進

- 働く人が個々の事情に応じて、多様な働き方を選択できる、誰もが働きやすい労働環境の実現を目指すため、長時間労働の削減や年次有給休暇の取得促進などについて働く方への意識啓発を行うとともに、ワーク・ライフ・バランスへの取り組みが人材の確保や生産性の向上などの好循環につながるメリットを企業に啓発することで働き方改革の推進に努めます。
- 柔軟で多様な働き方を推進する観点から、在宅での勤務が可能となるテレワークの活用や、副業・兼業へ向けた環境整備についての啓発に努めます。

主な事業

若者の雇用の場の創出・就業促進	<ul style="list-style-type: none"> ・若年者の職業的自立に対する支援 ・UIJターンによる人材確保の推進
中高年齢者・障がい者の雇用対策	<ul style="list-style-type: none"> ・中高年齢者及び障がい者雇用の促進
女性の雇用機会の充実・就業環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・女性就労の促進
職業能力開発機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・職業訓練生養成の奨励
働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革に向けた普及啓発

まちづくり指標

指標名	基準値	目標値(R8)
とやま呉西圏域連携就業マッチング参加登録者数(求職者(新規学卒者のほか、転職希望者、UIJターン希望者含))	280人/年	300人/年



とやま呉西圏域合同就職面接会





主なゴールを掲載



水・緑・食が豊かで 暮らしにうるおいがある

1 農業の持続的発展



現状と課題

- 農業は、その源泉を自然資本や環境に大きく依存しています。農業が将来にわたって持続可能となるよう対策を講じる必要があります。
- 担い手の減少、後継者不足による耕作放棄地の増大が懸念されます。また、中山間地域では高齢化や人口減少が進行しており、生産条件も不利なことから、次世代技術の導入による効率化・省力化を推進するとともに、農業以外の分野も含めた総合的な対策を講じる必要があります。
- 農業が若者世代に魅力ある産業となるよう、農業による所得の増大を目指す必要があります。農地の利用集積や、コメと付加価値の高い野菜、球根・切花、農産加工品などとの複合経営を一層促進するとともに、農業特産品の開発や販売促進など高岡ブランドの育成に努める必要があります。



施策の展開

多様な担い手の確保と経営強化

- 多様な事業者が主体となり安定した地域営農体制が構築できるよう、障がい・引きこもり等社会的に支援が必要な方を含む多様な人材の活躍を促進します。
- 地域農業・農地の将来方針を地域自らが考え作成する「人・農地プラン」の適切な運用を通じ、意欲ある農業者が地域農業の中心となる地域営農体制の構築と、農業者だけでなく、そこに暮らす人々が主役となる地域社会づくりに取り組みます。
- 農地の利用集積の促進による経営規模の拡大、集落営農などの組織化・法人化の支援、高性能機械導入支援等により、認定農業者や集落営農組織の経営基盤の強化に取り組みます。

農業生産基盤の整備

- 農業の競争力強化を図るため、農地の大区画化や高収益作物に転換するための汎用化に取り組みます。
- 持続的な営農活動を推進するため、用排水路等農業用施設の改修など長寿命化を図ります。



主なゴールを掲載

スマート農業※¹の推進

- 農業分野への次世代技術の導入による農作業の効率化・省力化を推進し、新規就農者の確保や、熟練農業者の技術の継承に努めます。
- データ等の蓄積・活用やIoT、AI等の技術を駆使し新たに農業にチャレンジする意欲ある若者の支援に努めます。
- 人と人との接触機会を減らすため、農業版DX※²(デジタルトランスフォーメーション)構築を目指し、スマート農業機械等の普及促進に取り組みます。

魅力ある農畜産物の生産

- 消費者需要に応じた魅力ある高岡産米づくりを推進するとともに、近年の気象変動にも対応した品質の米の生産に努めるなど、高岡産米の競争力の向上を図ります。
- 麦・大豆・園芸作物等の生産振興による水田のフル活用を進め、生産性の高い水田農業の確立に取り組みます。
- 牛乳・牛肉・卵などの畜産物の加工や販売促進に取り組み、高付加価値化に努めます。

農業特産品の開発・ブランド化

- 葉物野菜(ほうれん草、小松菜等)、にんじん、ハトムギやチューリップ球根・切花、菅などの戦略品目や、これまでの6次産業化支援の取り組みによる農業特産物の魅力向上や発信に努め、高岡産品のブランド力の育成に取り組みます。
- 高岡の地域に合った新規品目の導入や、新たな農産加工物の開発支援に取り組みます。
- インターネットや海外など新たな販路の開拓、高岡の食の魅力発信に取り組みます。

人と環境にやさしい農業の推進

- 化学肥料や化学合成農薬を低減する生産活動を推進し、環境負荷の軽減に取り組みます。
- 家畜排泄物を有機肥料として土壌への還元を図ることで、地域循環型農業の促進に努めます。

地産地消の推進

- 地域で採れる農畜水産物や地場産食材を使った料理の紹介など、地場産品の魅力発信に努めます。
- 認定こども園・幼稚園・保育所や、市内の小・中学校等の給食など、まとまった食材利用がある施設の食材活用推進に取り組みます。

家畜疾病の予防・対応

- 予防接種や防疫対策を継続的に行い、家畜疾病の発生防止に努めるとともに、発生した際に適切にまん延防止ができるよう体制づくりに取り組みます。
- 市内で畜産業を営む事業者が甚大な影響を受けることがないよう、国・県や他市町村と連携し、特定家畜伝染病の適切な予防対応に努めます。

※1

ロボット・AI(Artificial Intelligence:人工知能)・IoT(Internet of Things:物のインターネット化)・ドローン等の先端技術を活用した農業技術全般のこと。農業従事者の減少・高齢化が進行する中において、農作業の省力化や品質の向上が期待される。

※2

AI、IoT等、デジタル技術を農業現場に実装することにより、データを活用した生産効率の高い営農、消費者需要のデータ化など、従来より価値の高い農産物等を提供する農業のこと。



主なゴールを掲載

主な事業

多様な担い手の確保と経営強化	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農・後継者確保の促進 ・高性能機械等の導入支援 ・農福連携の推進(セミナー等の開催)
農業生産基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・経営体育成の基盤整備
スマート農業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業技術の導入支援
魅力ある農畜産物の生産	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者需要に対応した米の作付けの推進 ・水田における園芸作物の生産支援 ・農畜産物の収益性向上支援
農業特産品の開発・ブランド化	<ul style="list-style-type: none"> ・菅笠保全対策の推進 ・6次産業化の推進 ・新たな販路開拓の推進 ・地場食材の魅力発信
人と環境にやさしい農業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化防止や生物多様性保全等に資する取り組みに対する支援
地産地消の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地場産野菜を活用した献立メニューの発信 ・給食への地場産食材の活用
家畜疾病の予防・対応	<ul style="list-style-type: none"> ・家畜防疫対策の推進 ・特定家畜伝染病発生に備えた訓練等の実施

まちづくり指標

指標名	基準値	目標値(R8)
新規就農者の増加数(累計)	—	50人 (R4~R8までの累計数)
スマート農業技術導入率	34% (R2)	59%



水・緑・食が豊かで暮らしにうらおいがある

2 農山村の振興



現状と課題

- 農業は、その源泉を自然資本や環境に大きく依存しています。農村等地域コミュニティが将来にわたって持続可能となるよう対策を講じる必要があります。
- 農村では、農業者の減少や高齢化が進行し、今後の農村周辺の資源や環境の保全に対する農業者の負担増加が課題となっています。
- 中山間地域では、人口減少に伴う地域を支える地域コミュニティの衰退や、魅力ある多様な地域産業の不足などが地域社会の存続に深刻な影響を及ぼしています。
- 農業用基幹水路は、農地をかんがいするほか、地域排水として重要な役割を果たしていますが、近年の豪雨や施設の老朽化に伴い、引き続き、整備促進や機能維持の向上に努める必要があります。
- 近年、耕作放棄地や雑木林の増加により野生鳥獣の生息域が拡大し、農林水産業被害が深刻化しています。



施策の展開

農村環境の保全

- 農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るための地域の共同活動に係る支援や地域住民との連携した取り組みなどを行いながら、地域資源の適切な保全管理や施設周辺の安全確保等に努めます。

都市農村交流の促進

- 高岡市の美しい自然環境や里山環境に触れ合う農業体験等の場を提供し、都市と農村の共生・交流と幅広い人たちの参画を促進して、農業・農村に対する理解を深める活動を推進します。
- グリーン・ツーリズム^{※1}の推進や民間事業者の観光農園事業等を通じて、都市住民と農林漁業関係者などとの交流の促進と地域の活性化を図ります。

※1
緑豊かな農山漁村地域において、農林漁業体験を通じて、その自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動。

鳥獣被害防止対策の推進

- 藪払い等の生息環境管理、電気柵等の侵入防止、捕獲檻による捕獲など、農作物被害等の防止対策の強化に取り組みます。
- 地域ぐるみで行う被害防止活動を支援するとともに、イノシシ等の処分などにおける地域の負担軽減に取り組みます。

山村・中山間・棚田地域の振興

- 地形による制約など生産条件が不利である一方で、地域ならではの環境資源がある中山間地域等については、これらの資源を維持し十分に活かしていけるよう、地域特性を踏まえた作物の生産やスマート農業の推進などに取り組み、地域住民との連携による中山間地域等の振興に取り組みます。
- 住民主体の地域づくりを促進し地域コミュニティの活性化を目指します。

農業・農村の大切さの理解促進

- 農業・農村について、皆で関わり支え合うよう、市民の農業・農村に対する理解促進を図ります。
- 食と環境を支える農業・農村を維持し次世代に継承するため、食育、農業体験、地産地消等の施策を展開します。
- 県、民間事業者など関係機関と連携した食品ロス削減に取り組みます。

農地防災の推進

- 災害から農地などを守るため、農業用水路等の整備を行い、広域的な農地防災に努めます。



収穫体験ツアー



主なゴールを掲載

主な事業

農村環境の保全	・ 農業・農村の機能を維持・発揮するための地域の共同活動等に対する支援
都市農村交流の促進	・ 里山交流イベントや小中学生の農林・里山体験等の実施
鳥獣被害防止対策の推進	・ 有害鳥獣捕獲の推進、侵入防止柵整備等に対する支援
山村・中山間・棚田地域の振興	・ 中山間地域などにおける農業生産活動の活性化支援
農業・農村の大切さの理解促進	・ 高岡の食やがんばる若手農業者の情報発信
農地防災の推進	・ 調整池及び水利施設の整備

まちづくり指標

指標名	基準値	目標値(R8)
都市農村交流人口	4,000人／年 (R元)	4,600人／年



地場もんマルシェ



たかおか地場産品マルシェ



水・緑・食が豊かで 暮らしにうるおいがある

3 林業の振興



現状と課題

- 中山間地域の人口減少や高齢化、不在村森林所有者の増加などにより、整備が行き届いていない森林が増加しており、適切な森林経営管理の促進を図っていくことが必要です。
- 地域の森林整備の主たる担い手である森林組合のさらなる経営基盤の強化を図る必要があります。
- 森林の持つ多面的機能の維持を図るため、地域ニーズ等を反映した多様な森づくりを目指すとともに、地域住民や市民ボランティアによる森づくり活動を推進する必要があります。



施策の展開

森林の多面的利用の促進

- 森林の持つ水源かん養、国土保全、二酸化炭素の吸収（地球温暖化の防止）などの公益的機能の維持増進を図るとともに、森林施業の合理化と地域産材の活用を図ります。

治山事業の推進

- 山地災害から市民の生命財産を保全し、また、水源かん養・生活環境の保全形成等を図るため治山事業を推進します。

森林の整備・保全

- 「高岡市森づくりプラン」に基づき、荒廃が進んだ森林の整備や保全を図るとともに、ボランティアの育成や市民との協働などによって、里山や森林の持つ公益的機能の維持・保全に努めます。
- 効率的な林業経営の展開や森林の整備・保全を適切に実施するとともに、林業の生産性向上を図るため、林道や林業専用道の開設・改良などの整備を推進します。
- 森林組合等が行う森林の整備に対して支援し、林業の活性化を目指します。
- 森林経営管理法に基づいた新たな森林管理システムにより、林業の成長産業化の実現と森林資源の適正な管理の両立を図ります。



主なゴールを掲載

主な事業

治山事業の推進	・ 森林資源の保全や治山事業の推進
森林の整備・保全	・ 森林の再整備の推進 ・ 林道の整備

まちづくり指標

指標名	基準値	目標値(R8)
森林整備面積(累計)	145ha (R元)	175ha



竹林整備





水・緑・食が豊かで暮らしにうるおいがある

4 水産業の振興



現状と課題

- 海面漁業や内水面漁業の担い手は減少しており、いずれも小規模です。
- 高岡市の特産物である養鯉振興については、高品質輸入魚の増加等により主要産地との競争の激化に直面しています。また、事業者数の減少など厳しい状況が続いています。
- 資源確保のため、アユ、鯉等の稚魚の放流事業に取り組んでいます。



施策の展開

漁場環境の保全

- 栽培漁業、資源管理型漁業^{※1}を支援し、藻場の再生などによる漁場環境の保全を図ります。

水産業特産品の開発・ブランド化

- 特産物である鯉の普及促進、ブランド力の育成により消費拡大を目指します。
- 新たな特産品の開発支援に取り組み、海面・内水面漁業の振興を図ります。

地域産業の後継者育成

- 「放流体験や自然観察会」を通じて児童生徒の頃から地域の産業について学ぶことで、理解と関心を高めます。

.....
※1
地域や魚種ごとの資源状況に応じた管理を適切に行い、「魚を殖やし
ながら獲る」漁業形態。



主なゴールを掲載

主な事業

漁場環境の保全	・ヒラメ、アユ等の稚魚の放流に対する支援
水産業特産品の開発・ブランド化	・6次産業化の推進(再掲)

まちづくり指標

指標名	基準値	目標値(R8)
農畜水産物の高付加価値化への支援件数(累計)	5件(R2)	17件



鯉の放流



地域産業